

出羽国南部の様相 - 城輪柵跡を中心に -

酒田市文化資料館・渡部 裕司

はじめに

出羽国の南部（山形県）は、周囲を日本海と山脈に囲まれており、盆地が並ぶ内陸部と平野が広がる日本海側（庄内）に大別される。日本海側と内陸部という2地域を結ぶように貫流しているのが最上川であり、鉄道が敷設される近代以前まではその支流河川も含め、重要な交通路として利用されてきた。

和銅5年（712）の出羽建国当初は、内陸部の置賜郡・最上郡は陸奥国に属し、その後出羽国に分置されている。なお、最上郡は仁和2年（886）に分郡し北が村山郡・南が最上郡となっている。

内陸部の置賜盆地・山形盆地は、古墳時代に古墳や集落が多く造られた地域である。7世紀前半～中頃は集落遺跡数が激減し、域内の様相が不明瞭となるが、7世紀後半以降になると、集落の再出現や窯業生産が始まるとともに7世紀後半以降の遺跡においては、堅穴建物のカマド形態や関東系土師器が出土する状況などから、陸奥国の影響とさらには関東からの移民の存在も想起させる。

日本海側（庄内）は、7世紀～8世紀前半までの遺跡は発見されておらず、遺構・遺物が確認できるのは、8世紀中頃以降である。北陸の土器生産の影響を強く受けており、北陸の支配者層及び須恵器工人が庄内へ進出し、地域開発・経営を担っていたことが想定される。

1. 出羽国南部における出土状況

出羽国南部における出土遺跡分布には、地域的な偏りがみられる（第1図・第2表）。庄内は最上川を境として南北に分けられるが、両者では施釉陶磁器の出土状況が大きく異なる。庄内北部は、出羽国南部で最も多く出土しており、さらに碗皿類や壺瓶類以外にも香炉や陶枕といった器種がある。一方、庄内南部の鶴岡市域では、庄内北部とは異なり、出土数が非常に少ない状況である。

内陸部では、貿易陶磁器や香炉等の出土が確認されておらず、碗皿類と壺瓶類が出土している。また北に

位置する新庄盆地では、古代の遺跡自体が非常に少なく、施釉陶磁器が出土している遺跡も確認されていない。

次に施釉陶磁器出土遺跡の分布状況から特に注目される遺跡をとりあげる。

（1）内陸（村山郡・最上郡・置賜郡）

・成沢西遺跡

成沢西遺跡は、古代最上郡域の須川沿いにあり、最上郡内では唯一緑釉陶器が出土している。この遺跡の北西部には、吉原遺跡群があり、多くの掘立柱建物跡や区画する溝跡が発見されている。成沢西遺跡と吉原遺跡群は、置賜盆地や仙台平野など周辺地域との交通上の要衝とみなされている。

・太夫小屋1遺跡

米沢盆地（置賜郡）に所在する川西町の太夫小屋1遺跡は、大型の建物跡や区画溝、円面硯や多くの墨書き土器が発見されたことから、置賜郡における重要な官衙遺跡もしくは寺院跡と考えられている。内陸部の遺跡では最も出土点数が多い。また、碗皿類よりも、瓶類が多く出土している。

（2）庄内北部

・下長橋遺跡と周辺遺跡（日光川・荒瀬川右岸）

遊佐町南部の下長橋遺跡は越州窯系青磁碗や東濃窯産灰釉陶器などが出土している。東田遺跡では、緑釉陶器香炉が出土している。下長橋遺跡と隣接しており、一体の遺跡として捉えられる。そしてこの2遺跡の東側には、中世における北限の荘園とされる遊佐荘の中心地大権遺跡があり、庄内北部においては、古代から中世への転換期における重要な場所といえるだろう。

・城輪柵跡周辺（日光川・荒瀬川左岸～最上川右岸）

酒田市域に含まれる日光川・荒瀬川左岸の平野部では、城輪柵跡や国府に関係する寺院跡と考えられている堂の前遺跡をはじめ、沼田遺跡や熊野田遺跡など官衙関連遺跡が多く調査されている。さらに東部丘陵上

第1表

政庁北方地域 調査面積 17,674 m ²			
種別	出土点数	比率 (%)	100 m ² あたりの破片数
貿易陶磁器	27	4.1%	0.15
緑釉陶器	172	26.2%	0.97
灰釉陶器	457	69.7%	2.59
合計	656	100%	3.68

には須恵器窯などの生産遺跡が多く所在する。この地域の特徴としては、出羽国南部の他地域に比べて貿易陶磁器や緑釉陶器の特殊品が多く出土している点が挙げられる。後田遺跡の青磁香炉など城輪柵跡以外でも特殊品（高級品か）が出土している。最も多く出土している城輪柵跡が単独で存在していたのではなく、周辺に分布する遺跡との強い関連性がうかがえる。

2. 城輪柵跡の出土状況

酒田市に所在する城輪柵跡は、昭和6年の文部省による調査結果により、翌7年国史跡に指定された遺跡である。城輪柵跡の年代は、政庁建物の変遷と共に伴する遺物から、9世紀前半～11世紀前半をI期からIV期に区分し、さらにII期、III期についてはそれぞれ2段階に分けている。

政庁北方地域の調査は、酒田市が公有地化した政庁北側17,674 m²の範囲を対象とし、東側から1～8区に調査区を分けている。

・城輪柵跡の施釉陶磁器出土状況

城輪柵跡で出土した施釉陶磁器は、総数751点である。城輪柵跡全体での出土量に占める政庁北方地域の出土割合は、総数の約87%を占め、突出した出土量である。なお、政庁北方地域以外の地点での出土点数は、貿易陶磁器3点、緑釉陶器47点、灰釉陶器37点で合計は87点となる。政庁北方地域以外では、政庁南門外南東地区で、比較的まとまって出土しており、この中には、顕著に使用された痕跡を持つ製品（稜皿）もある。政庁中心にある正殿や脇殿など、主要建物付近でも出土していない。なお、灰釉陶器については、9世紀中頃～10世紀代まで、比較的長期間使用されていたと考えられる。

・政庁北方地域の施釉陶磁器出土状況

1) 出土破片数と分布

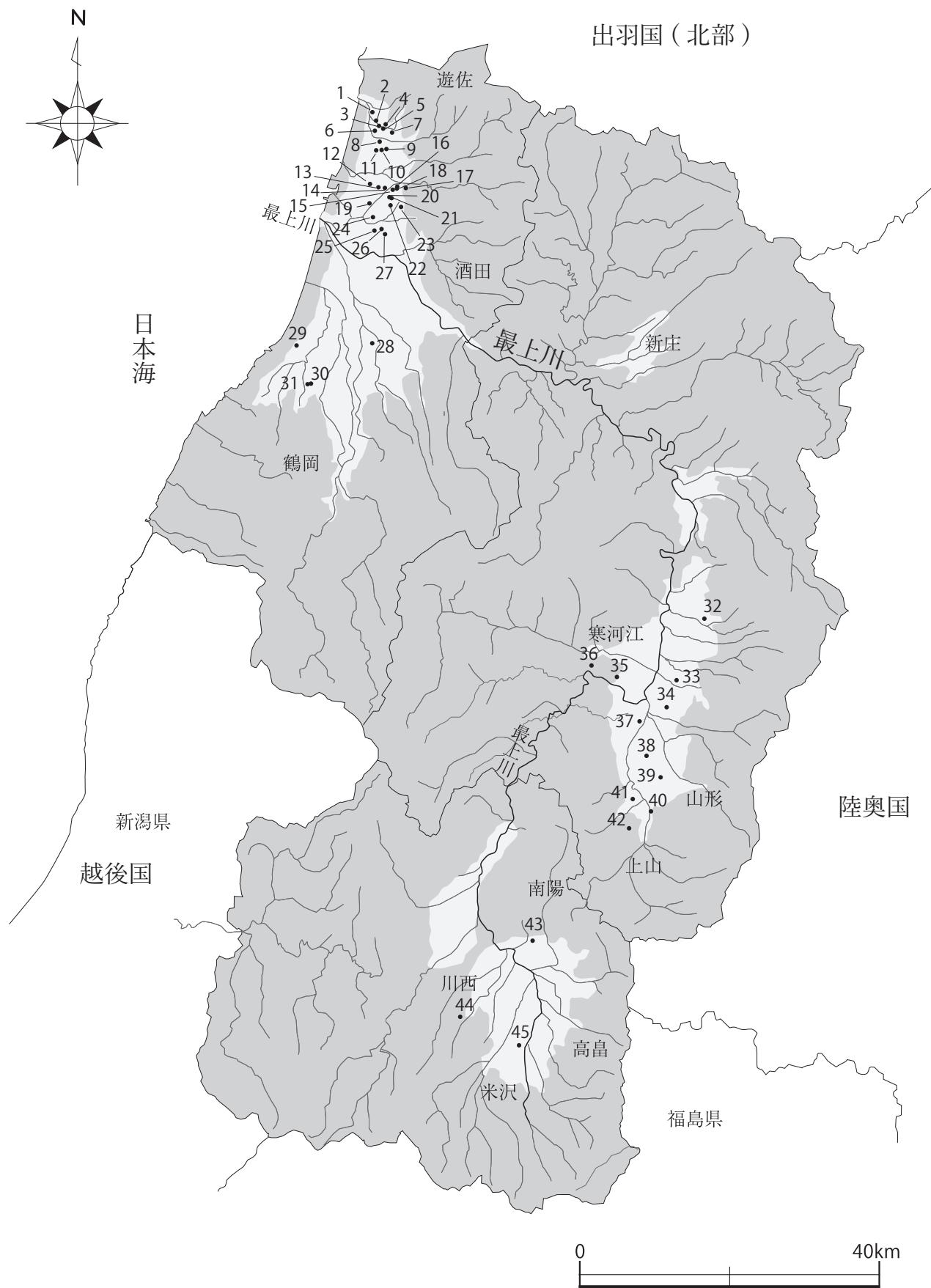
特徴としては、貿易陶磁器が20点以上出土していることと緑釉陶器出土数が100 m²あたり0.97個、比率26.4%という点が挙げられる（第1表）。貿易陶磁器は数量的にも少なく、分布のまとまりはみられないが、緑釉・灰釉陶器は3区と4区に集中する地点がある。

2) 貿易陶磁器について

政庁北方地域で出土した貿易陶磁器には唐三彩陶枕、白磁、長沙窯産碗、越州窯系青磁がある。唐三彩以外の器種はすべて碗皿と考えられる。白磁は、玉壁高台の碗と碗体部片の2点あるが、玉縁口縁の破片は出土していない。越州窯系青磁の中には、I類の蛇の目高台碗や削出高台で底部外面に目跡が複数個残るもの、輪花碗がある。

おわりに

出羽国南部の中では、日本海側の庄内北部が最も多く施釉陶磁器が出土しており、その中でも城輪柵跡の出土量は突出している。出羽国南部で出土している約950点のうち、庄内北部の遺跡から90%以上出土しており、さらにその中でも城輪柵跡は全体の8割近くを占めている。城輪柵跡は、従前、外郭施設や政庁建物等からその性格論が論じられ、平安期の出羽国府として認識されている。施釉陶磁器の出土状況からも、出羽国府に相応しい遺跡であるといえるだろう。さらに内陸の遺跡と城輪柵跡を中心とする庄内北部は、施釉陶磁器という、出羽国以外の遠隔地で生産され搬入された共通の製品が出土していることから、最上川とその支流という交通ルートによって結びついていたことが想定される。



第1図 出羽国南部における施釉陶磁器出土遺跡

第2表 出羽国南部における施釉陶磁器出土数一覧

No	遺跡名	貿易陶磁器	緑釉陶器	灰釉陶器	備考	市町村
1	筋田遺跡	-	1	1		遊佐町
2	北目長田遺跡	-	3	3		遊佐町
3	木戸下遺跡	-	2	-		遊佐町
4	宮ノ下遺跡	-	1	1		遊佐町
5	上高田遺跡	-	3	2		遊佐町
6	木原遺跡	-	2	-		遊佐町
7	大坪遺跡	-	-	18		遊佐町
8	小深田遺跡	-	-	1		遊佐町
9	浮橋遺跡	-	2	1		遊佐町
10	下長橋遺跡	4	37	16	越州窯系青磁	遊佐町
11	東田遺跡	-	4	2	緑釉香炉	遊佐町
12	新田目城	-	-	1		酒田市
13	豊原遺跡	-	-	1		酒田市
14	城輪柵跡	33	217	498		酒田市
15	後田遺跡	8	5	3		酒田市
16	茅針谷地遺跡	-	2	1		酒田市
17	八森遺跡	-	1	-		酒田市
18	堂ノ前遺跡	3	-	-		酒田市
19	上曾根遺跡	-	2	-		酒田市
20	沼田遺跡	-	4	2		酒田市
21	俵田遺跡	-	1	1		酒田市
22	境興野遺跡	-	-	1	灰釉手付き瓶	酒田市
23	北境遺跡	-	-	1		酒田市
24	新青渡遺跡	-	-	1		酒田市
25	熊野田遺跡	-	3	1		酒田市
26	手蔵田2遺跡	-	-	1		酒田市
27	手蔵田6・7遺跡	-	2	1		酒田市
28	平形遺跡	-	1	1		鶴岡市
29	西谷地遺跡	-	-	3		鶴岡市
30	月記遺跡	-	-	-	奈良三彩1点	鶴岡市
31	後田遺跡	-	-	1		鶴岡市
32	小田島城跡	-	-	2		東根市
33	的場遺跡	-	-	1		天童市
34	中袋遺跡	-	-	5		天童市
35	三条遺跡	-	-	1	本文記載のみ	寒河江市
36	富山2遺跡	-	-	1	原始灰釉陶器	寒河江市
37	達磨寺遺跡	-	-	1		中山町
38	梅野木前1遺跡	-	-	1		山形市
39	双葉町遺跡	-	1	2		山形市
40	成沢西遺跡	-	2	-		山形市
41	樋渡遺跡	-	1	-		山形市
42	萩原遺跡	-	-	1		山形市
43	庚壇遺跡	-	-	1		南陽市
44	太夫小屋1遺跡	-	2	30		川西町
45	大浦B遺跡	-	-	1		米沢市

合計

48

299

610